

まちづくり市民アンケート 調査結果をお知らせします。

これまでのまちづくりの進め方を検証した上で、将来を見据えた新たなビジョンの策定が求められています。このため、より多くの市民の意見をお聞きし、市民ニーズを次期総合計画の策定に反映するためアンケート調査を実施しました。

市民の皆さまから貴重なご意見やご協力をいただきありがとうございました。なお、準備が整い次第、仙北市ホームページに調査結果を掲載しますので、そちらもご覧ください。



問合せ：企画政策課 ☎ 43-1112

調査方法

調査対象	①全世帯対象：18歳以上の男女 2,300人 ②若者・子育て世代対象：18～30歳代までの男女 200人		
サンプル抽出方法	①18歳以上を無作為に抽出 ②18～30歳代までを無作為に抽出		
調査実施時期	平成27年2月9日～24日		
回収数	①全世帯対象	有効回収数 1,107票	回収率 48%
	②若者・子育て世代対象	有効回収数 49票	回収率 25%

まちづくり
日記

No.83

『歩くこと・考えること』

仙北市長 門脇 光浩

最近よく歩いています。市内で用を足すとき、近くだっただけ車に乗らないで移動したり、出張で都内にいても、タクシーは拾わないで電車もやめて、できるだけ歩きます。新しい出会いや発見も多く、リフレッシュには最高です。

実は、歩くことと深い関係があることには、幾つかの理由があります。

まず血圧をはじめ、多くの健康指数が危険水域を越えていたこと。このままでは何が起こしても不思議ではないと診断されました。昨年は100キロマラソンの開会式で、参加ランナーを前に「皆さん100キロ達成を目指して頑張ってください。私は既に100キロを達成しています」と冗談を飛ばしましたが、周囲からは笑えないジョークだと、お叱りをいただきました。さらに家人からは、「イリョウ費が心配」の一言です。私は「医療費」と理解しましたが、正しくは「衣料費」だったらしく、愛情の深さに感動しました。

法度です。そしてまち歩きです。朝夕など、近所でもウォーキングをしている人を見かけます。とても生き生きとしていて、笑顔も素敵です。ある方は、「歩き出して体重が減り、生活や思考が積極的になった」と言っていました。そこで気がつきました。歩くことは、健康改善はもちろん、「脳を活性化させる効果があるのでは（すでに定説）」と。そう言えば、哲学者カントは、考えることをする間、そこら中を歩き回ったと何かに読みました。永六輔と中村八代の名曲「上を向いて歩こう」（歌：坂本九）は、永中村コンビで有楽町を散歩していて、曲想を決めた逸話が有名です。

さて、地位のある人が役職を退いたとたん、送迎の車がなくなるので“失脚”と言ったと、先輩から教わりました。でも私は、執務室内での仕事に追われ、歩けなくなった結果、脳の刺激不足でアイデアが枯渇し、業績不振を招いた結果が解任。つまり歩かなくなることが“失脚”の語源ではないかと…。

皆さん、歩きながらまちづくりを考えましょう！

仙北市食育推進会議・総合産業研究所 ☎ 43-2243

6月は食育月間

毎月19日は食育の日

食育に取り組もう！

仙北市では、市民の皆さんが各テーマを通じて『食育』についての取り組みを知っていただくため、仙北市の食育推進事業を掲載しますので、仙北市ホームページに掲載中の計画もあわせてご覧ください。

身近な食育

小・中学生が毎日食べている給食が未だに恋しくなる方も多いのではないかと思います。

自分のお子さんやお孫さんが食べている給食メニューは学校で配付される「給食だより」で確認することができます。また、各給食センターではその日の給食の献立に使われる食材や内容について紹介するため「給食一口メモ」を作成しており、小・中学生が給食を食べる時間に合わせ、校内放送をしています。実はこの「給食一口メモ」が食育と大きく関わっていて、その日の献立の食材の産地等について説明したり、食材に生徒が身近に「食」に関心を持つ取り組みが行われています。このようない取り組みが食を大切にする気持ちや食の安全を考えるきっかけになります。

給食一口メモ

今日はアスパラベーコンソテーです。日光をたくさん浴びて育ったグリーンアスパラはビタミンAやビタミンCをたくさん含んでいます。また、アスパラの穂先には、ルチンというポリフェノールの一種が豊富で、血管を丈夫にしてくれます。他にもアスパラギンという成分が疲れをとってくれるなど、よい効果がたくさんあります。今日のアスパラは、地元田沢湖地区で収穫されたアスパラです。旬の味をおいしく食べてください。

毎年6月は「食育月間」

食育月間では、国、地方公共団体、関係団体などが協力して、食育の一層の浸透を図ることとしています。期間中は、全国各地で食育をテーマとした行事等が開催されます。食育月間をきっかけにして、「朝ごはんを家族全員で食べる」などのそれぞれができることから実践してみたいかがでしょうか。

まちづくりに関わる各項目について、現在の満足度をお答えください。

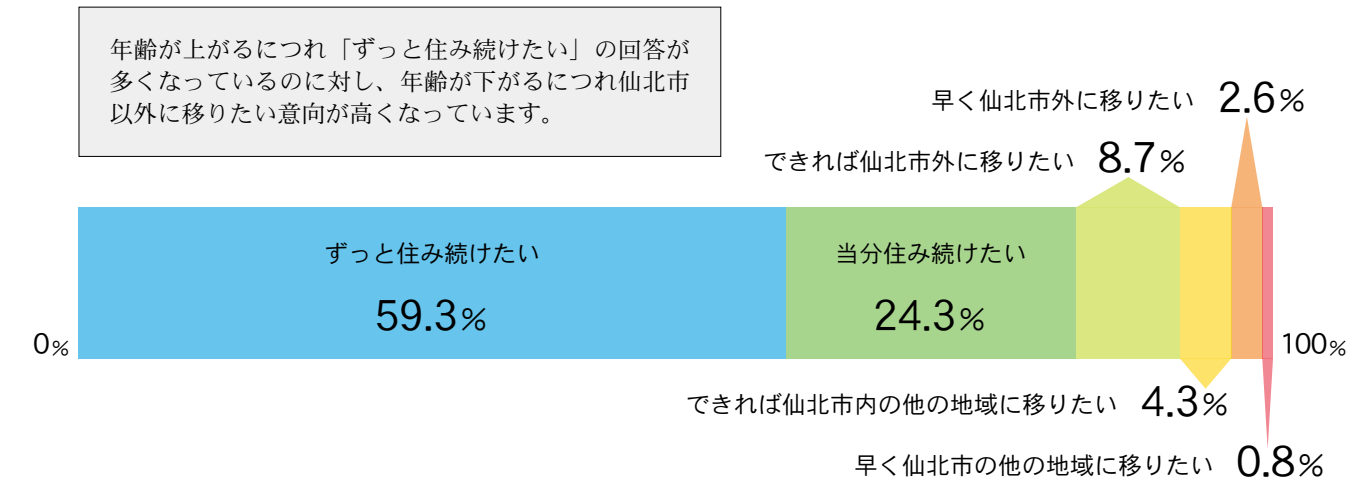
年齢層別満足度の順位《全世帯》

年齢	満足度《高》			満足度《低》		
	1 位	2 位	3 位	1 位	2 位	3 位
10 歳代	グリーンツーリズム・エコツーリズム 80%	農業 78%	下水道 78%	定住対策 10%	商業 14%	公園 18%
20 歳代	消防 79%	交通安全 78%	防犯 70%	雇用環境 5%	企業支援 8%	商業 12%
30 歳代	交通安全 79%	グリーンツーリズム・エコツーリズム 78%	消防 77%	雇用環境 12%	商業 14%	企業支援 20%
40 歳代	交通安全 79%	グリーンツーリズム・エコツーリズム 78%	健康づくり 77%	雇用環境 7%	企業支援 7%	定住対策 8%
50 歳代	交通安全 74%	健康づくり 69%	消防 69%	雇用環境 7%	商業 10%	定住対策 12%
60 歳代	健康づくり 80%	交通安全 78%	幼児教育 78%	商業 9%	雇用環境 10%	企業支援 13%
70 歳代	健康づくり 89%	母子保健 85%	幼児教育 83%	雇用環境 11%	商業 12%	企業支援 15%
80 歳代以上	健康づくり 83%	母子保健 81%	水道 79%	商業 7%	企業支援 11%	雇用環境 12%

現在の地域に住んで何年になりますか。



これからも住み続けたいと思いますか。

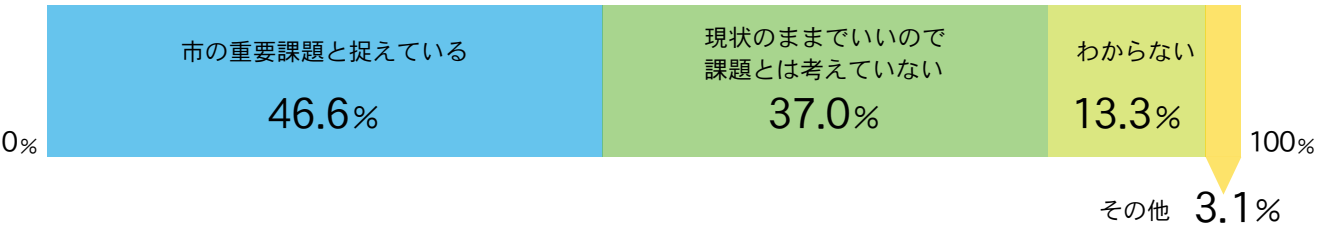


庁舎建設は、市の大きな課題と捉えています。あなたはどのようにお考えですか。

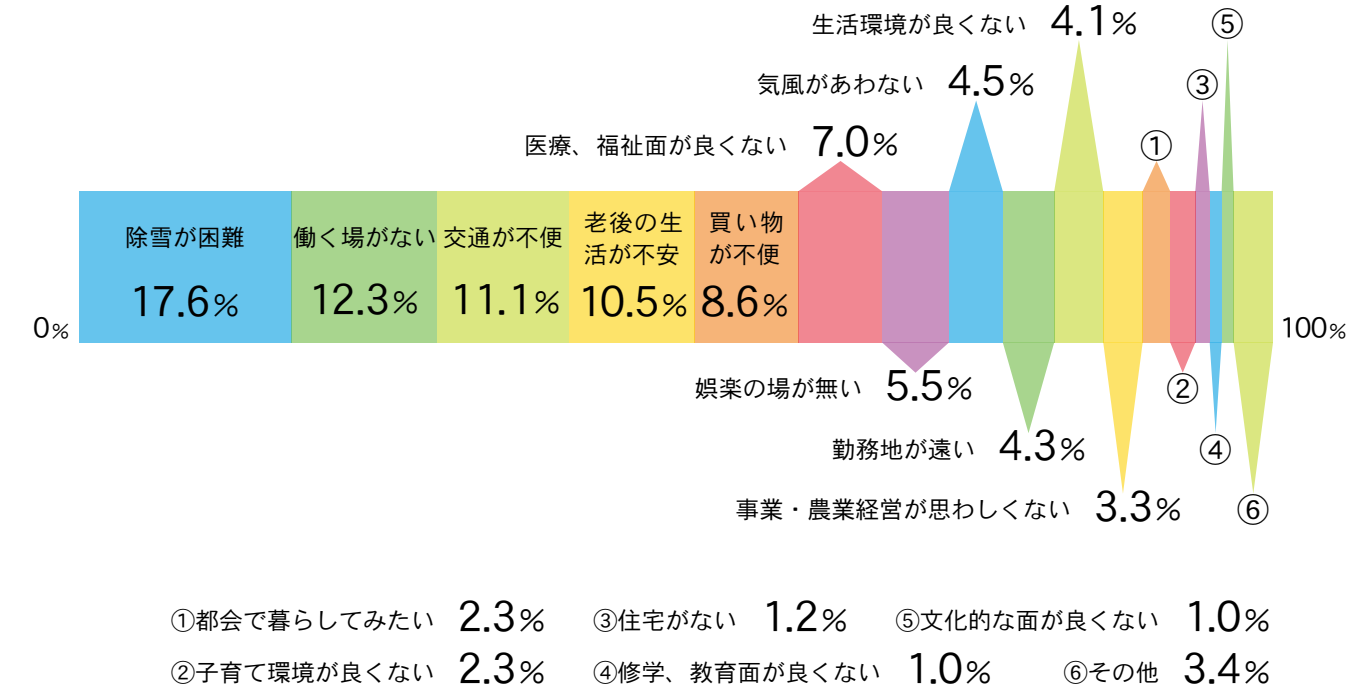
田沢湖地区の各地域と西木町の各地域では、「現状のままでいい」という回答が多く、角館町各地域では、重要課題と捉えている方が多くなっています。

利用頻度の高い庁舎

全世代と若者・子育て世代で、角館庁舎の利用頻度は46%と最も高く、次いで田沢湖庁舎が20%、西木庁舎は17%となっています。地域別では、ほぼ各居住地にある庁舎の利用が主な利用となっています。

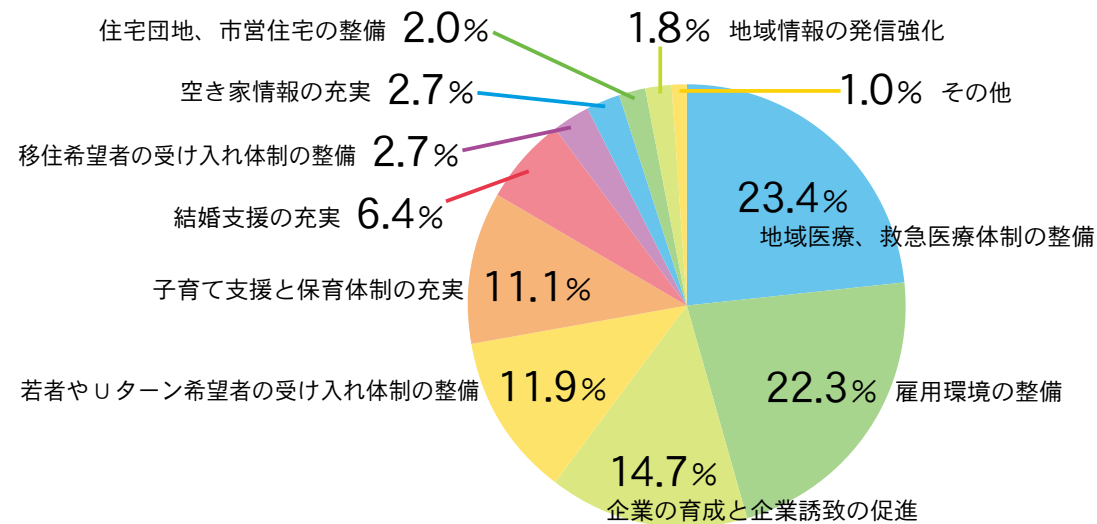


どのような理由で、仙北市外または仙北市内の他の地域に移りたいとお考えですか。



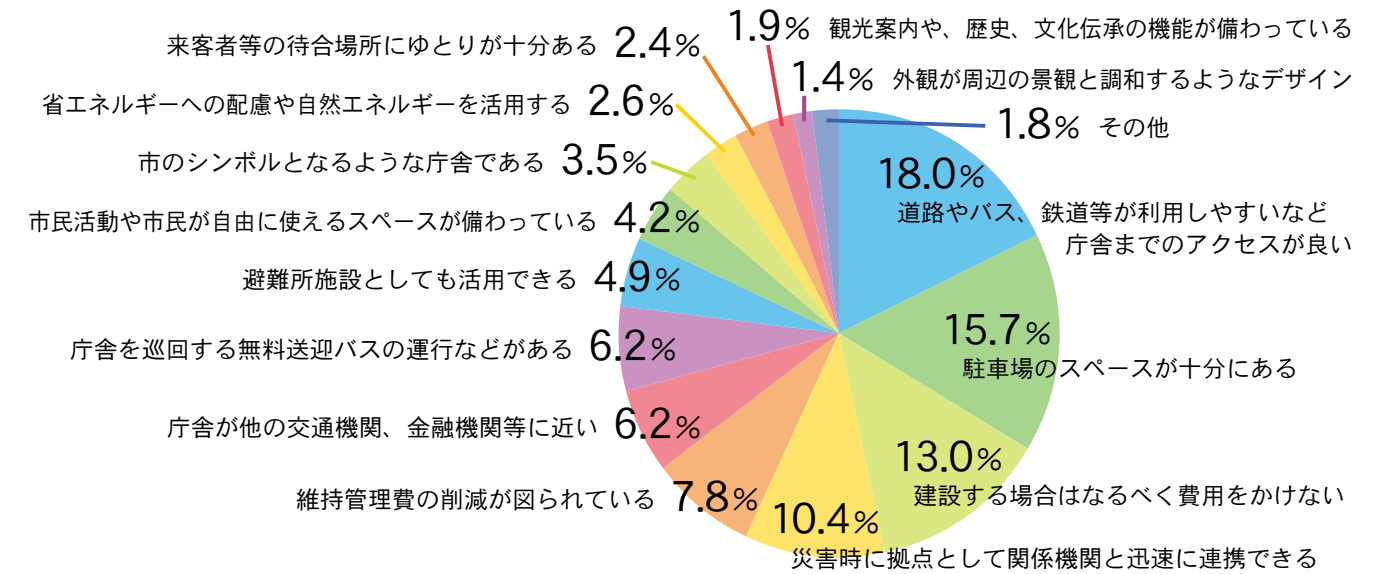
『定住対策』で、重点的に推進すべき取り組みは何だと思いますか。

年齢層別では、「地域医療、救急医療体制」、「雇用環境の整備」について各年齢層ともに高く、20歳代で「雇用環境の整備」が非常に高く、30歳代で「子育て支援と保育体制の充実」が高くなっています。また、田沢湖田沢地域、角館町雲沢地域、西木町桧木内地域で「地域医療、救急医療体制の整備」に対するニーズ、西木町上桧木内地域で「結婚支援の充実」が高くなっています。



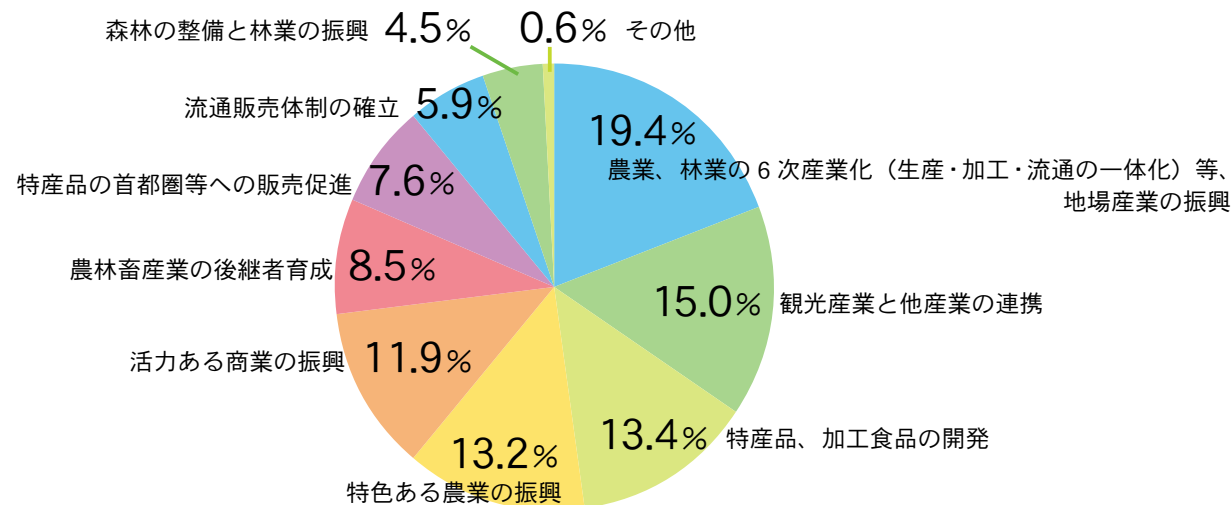
今後、庁舎を整備する場合、特に重要だと思うことは何ですか。

全世代、若者・子育て世代両方で、交通の便が良いこと、駐車場が整備されていることが重要であると感じています。次いで建設費用を掛けすぎないこと、災害時に拠点として関係機関と連絡が取れることを重要視しています。また、交通アクセスに対するニーズの高さは、各地域共通ですが、角館町の各地域では、駐車場の整備に対するニーズ、他は建設の低コストに対するニーズの高さがうかがえます。



『産業連携』で、重点的に推進すべき取り組みは何だと思いますか。

全世代では、「農林業の6次産業化」が最も多く、次いで「観光産業と他産業との連携」、「特産品、加工食品の開発」となっています。若者・子育て世代では、「特産品、加工食品の開発」が最も多く、「活力ある商業の振興」、「観光産業と他産業との連携」、「農林業の6次産業化」と続いています。地域別では、西木町桧木内地域、西木町上桧木内地域で「森林整備と林業の振興」が高く、田沢湖田沢地域と角館町角館地域で「活力ある商業の振興」へのニーズが高いのが特徴です。



『観光振興』で、重点的に推進すべき取り組みは何だと思いますか。

全世代では「観光誘客体制の整備と観光資源の掘り起こし」が最も多く、次いで「国道や県道、生活道路の整備」、「地域ブランドの形成」、「観光宣伝の強化」となっています。若者・子育て世代では「観光宣伝の強化」が最も多く、次いで「観光誘客体制の整備と観光資源の掘り起こし」、「地域ブランドの形成」がほぼ同数で、次いで「公共交通の利便性の充実」となっています。地域別では、田沢湖地区全域で観光宣伝の強化に対するニーズ、西木町上桧木内地域で国道や県道、生活道路の整備へのニーズが高くなっているのが特徴です。

